

願記・木佛尊像御點檢願 御影自影願之件

何府市町
何縣郡村
何寺住職

法類何 某◎

(組長及管事經由ノコト)

執行御中

木佛御札申換願

從來安置ノ木佛御札何々(水火盜難紛失等ノ)ニ付今般更ニ御下附被成下度願上候也

何府市町
何縣郡村

何寺住職(又ハ兼務住職)

年月日 何 某◎

何府市町
何縣郡村

何寺住職

法類何 某◎

(組長及管事經由ノコト)

執行御中

○御影自影願之件

一 一般末寺ハ必ス五尊(木佛尊像御開山御影太子)ヲ安置スヘシ

一 一般末寺ヘ依願御授與ノ御開山御影ハ三番形トス但シ堂班餘之間以上ハ一番形又ハ無圖御影ニ、脇之間以下ハ二番形御影ニ御掛替若クハ申替ヲ出願スルコトヲ得

一 宗祖 中宗大師號御影ハ餘之間以上ヘ無圖乃至一番形ヲ、脇之間以下ヘ二番形又ハ三番形ヲ依願授與セララル

一 御開山一番形眞向御影ハ慶應三年以前ニ餘之間以上タリシ末寺又ハ慶應三年以前脇之間以下ニシテ現今本座二等以上トナレル末寺ヘ依願授與セララル

一 御繪傳ハ堂班ニ關スル區別ナシ

一 御歷代御影又ハ御歷代及前住上人連座御影ハ餘之間以上ヘ三番形、脇之間以下ヘ四番形依願授與セララル但シ祖師蓮師御連座又ハ蓮師ト蓮師以前ノ御歷代連座御影ハ授與相成ラス

一 前住上人御影ハ餘之間以上ヘ二番形又ハ三番形、脇之間以下ヘ四番形依願授與セララル

一 御影寄進人ハ願ニ依リ御影御授與違書ニ其法名ヲ記

授與被成下度此段願上候也

何府市町
何縣郡村

何寺住職(又ハ兼務住職)

年月日 何 某◎

(寄進人門徒中、同行中)

又ハ法名ヲ記載スヘシ

(無住且ツ兼務ナキトキハ檀)

家總代法類ヨリ出願スヘシ

(組長及管事經由ノコト)

執行御中

院房座號 何年何月何日死亡
釋何々像 年何年何月

衣體堂班何五條袈裟何色衣、切袴

但シ本人存生中許可ノ衣體ヲ記スヘシ

右自影安置致度候條御授與被成下度而像相添ヘ此段奉願候也

何府市町
何縣郡村

何寺住職(又ハ兼務住職)

年月日 何 某◎

(無住且ツ兼務ナキトキハ檀)

家總代法類ヨリ出願スヘシ

願記・御影自影願之件

執行御中
御影申換願

金襴又ハ綾地何番形

一何大師又ハ何上人御影

右御影御安置致居候處(水火盜難又)ニ付今般更ニ御

入セラル、コトヲ得

一自影願ニハ必ス其本人ノ面像及袈裟紋章ヲ添附スヘシ

(書式)

御影・願

金襴又ハ綾地何番形

一何大師又ハ何上人御影

右御影御安置仕度候條御授與被成下度此段願上候也

何府市町
何縣郡村

何寺住職(又ハ兼務住職)

年月日 何 某◎

(寄進人門徒中、同行中)

又ハ法名ヲ記載スヘシ

(無住且ツ兼務ナキトキハ檀)

家總代法類ヨリ出願スヘシ

(組長及管事經由ノコト)

執行御中

願記・二物願之件 教會講社設立認可申請之件

(組長及管事經由ノコト)

執行御中

執行御中

○二物願之件

一、二物ハ永代内陣本座二等以上ノ末寺及末寺支坊ニ
限リ依願許可セラル

(書式)

二物願

何府市町
何縣郡村

堂班永代何々

何組

何

寺

今般該寺ハ天蓋禮盤備付仕度候除御許可被成下度此段
願上候也

年月日

右寺住職

(組長及管事經由ノコト)

何

某

○教會講社設立認可申請之件

一教會講社設立志願ノ者ハ左記ノ通り申請スヘシ

(書式)

何(教會、講、社)設立認可申請

何府市町
何縣郡村

何 會(講又ハ社)

今般法義相續ノ爲メ有志ノ者協議ノ上前記ノ(教會、
講、社)設立致度候ニ付キ御差支無之候ハ、「御認可
被成下度別紙規則書並ニ(教會、講、社)員名簿相添ヘ
此段願上候也」

年月日

何府市町
何縣郡村

何寺住職(又ハ衆徒、但シ教師)

願記・教會講社職員任命之件

(組長及管事經由ノコト)

執行御中

追テ同時ニ教會講社長御印章下附希望者ハ前記書式
末尾ヲ左記ノ通り認ムヘシ

左記

「御認可ノ上教會、講、社、長御印章御下附被成下
度規則書、(教會、講、社)員名簿相添ヘ此段願上
候也」

以下前ニ同シ

一設立者全部連署ヲ要ス

○教會講社職員任命之件

一教會講社設立認可ノ上ハ左記書式ニ依リ申請スヘシ

何(教會、講、社)職員任命申請

何府市町
何縣郡村

何寺住職(又ハ衆徒但シ教師)

擔當者 何 某

何府市町
何縣郡村

何々(職名) 何 某

今般何(教會、講、社)設立御認可相成候ニ就テハ右之
通職員推選致シ候ニ付キ御詮議ノ上頭書ノ通り御任命
被成下度此段願上候也

年月日

何府市町
何縣郡村

何寺住職(又ハ衆徒但シ教師)

豫定擔當者 何 某

(組長及管事經由ノコト)

執行御中

願記・托鉢願之件

○托鉢願之件

一 托鉢免許證ハ必ス三名以上共同出願スヘシ
 但シ前ニ免許證下附濟ノ者ニ參加シ三名以上ニ違
 スル場合ニハ一名又ハ二名ニテ出願スルコトヲ得
 一 右免許證下附出願者ハ一名ニ付冥加金參圓並ニ戶籍
 抄本相添ヘ左記願書ヲ差出スヘシ

(書式)

托鉢免許證下附願

私共何名(三名)又ハ私儀何府市町縣郡(今般托鉢規程
 以上)村何寺住職何某ト共ニ
 ニ基キ托鉢ヲ行ヒ度候間免許證御下附被成下度此段願
 上候也

何府市町
何縣郡村

何寺住職(副住職前住
職又ハ衆徒)

年月日

何 某

(三名連署)

(前ニ免許證下附ノ者ニ參加
スル場合ニハ一名又ハ二名)

(組長及管事經由ノコト)

執行御中

財

團

護持會 慈善會 慈善會 人事會 共保團 本末基金果實處分 非常準備金下附 財團法人設立準則 財團課規定 內外布教會 本山法要財團 龍谷大學財團 愛護財團 宗學研究財團 北米開教財團

願記・托鉢願之件

○托鉢願之件

一 托鉢免許證ハ必ス三名以上共同出願スヘシ
 但シ前ニ免許證下附濟ノ者ニ參加シ三名以上ニ違
 スル場合ニハ一名又ハ二名ニテ出願スルコトヲ得
 一 右免許證下附出願者ハ一名ニ付冥加金參圓並ニ戸籍
 抄本相添ヘ左記願書ヲ差出スヘシ
 (書式)

托鉢免許證下附願

私共何名(三名)又ハ私儀何府市町縣郡
 (以上)村何寺住職何某ト共ニ)今般托鉢規程
 ニ基キ托鉢ヲ行ヒ度候間免許證御下附被成下度此段願
 上候也

何府市町
何縣郡村

何寺住職(副住職前住
職又ハ衆徒)

年月日

何 某印

(三名連署)

(前ニ免許證下附ノ者ニ參加
スル場合ニハ一名又ハ二名)

(組長及管事經由ノコト)

執行御中

財

團

護持會 慈善會 慈相談所 人事財團 共保財團 本末基金果實處分 非常準備金下附 財團法人設立準則 財團課規定 內外布教會 本山法要財團 龍谷大學財團 愛護財團 宗學研究財團 北米開教財團

財團部

○護持會財團設立許可之件

(明治三十三年十一月
告示第三十二號)

本年法度第十一號ニ依リ護持會財團設立ノ儀其筋ヘ御
願立相成候處別紙之通許可相成ル

內務省令京戊第九五號

京都市下京區堀川通本願寺門前町

眞宗本山本願寺門跡

伯爵 大谷 光尊

明治三十三年九月二十九日付眞宗本願寺派護持會財團
之件民法第三十四條ニ依リ許可ス

明治三十三年十二月七日

內務大臣文學博士男爵 末松 謙澄 謹

財團設立御許可申請書

今般別紙寄附行爲趣意ノ通り財團設立致度ニ付御許可
被成下度民法第三十四條ニ依リ此段申請候也

明治三十三年九月二十九日

京都市下京區堀川通本願寺門前町

財團部・護持會財團設立許可之件 眞宗本願寺派護持會財團寄附行爲

眞宗本山本願寺門跡

伯爵 大谷 光尊

內務大臣侯爵西郷從道殿

○眞宗本願寺派護持會財團寄附行爲

第一章 目的

第一條 本財團ハ眞宗本願寺派ノ布教(宗教)及興學
(學術)ノ發達ヲ企圖スル爲メ之カ必要ノ費用ヲ支辨
スルヲ以テ目的ト爲ス

第二章 名稱

第二條 本財團ハ眞宗本願寺派護持會財團ト稱ス

第三章 事務所

第三條 本財團ノ事務所ハ京都市下京區堀川通
門前町一番戶眞宗本願寺派本願寺寺内ニ設置ス

第四章 資産ニ關スル規定

第四條 本財團ハ寄附行爲ニ依ル資産金壹百參拾萬八
千圓ヲ以テ設立セラル、モノトス
前項ノ資産ハ寄附金(第六條)及果實剩餘(第九條)ノ
編入ニ依リ漸次之ヲ増殖シ總額金貳百萬圓ニ達スル
ヲ期スヘシ

財團部・眞宗本願寺派護持會財團寄附行爲

第五條 本財團設立者ノ氏名及身分並ニ設立者ノ爲セ
ル寄附行爲ニ依ル金額ノ内譯左ノ如シ
一金壹百參拾萬八千圓 總 額

内 譯
金壹百參拾萬八千圓 國債證券額面
設立者

眞宗本願寺派本願寺門跡

伯爵 大 谷 光 尊

第六條 本財團ノ目的ヲ賛成スル者ハ眞宗本願寺派ノ
門末ト否トナ問ハス本財團ニ資財ヲ寄贈スルコトヲ
得

前項ノ寄贈金ハ本財團ノ資産中ニ之ヲ編入スヘシ

第七條 本財團ハ何人ナ問ハス資財ヲ寄贈スル者アル
トキハ生前處分ト遺言トヲ論セス之ヲ受納シ其寄贈
者ノ氏名ハ本財團ノ帳簿ニ記入シ其寄贈者又ハ遺言
執行者ニ對シ領收證ヲ交付ス

第八條 資産ハ常ニ國債證券又ハ三府ノ市公債ニ換ヘ
日本銀行ニ保護寄託ヲ爲スモノトス但其金額公債ニ
換フルニ不足ナル場合ハ其不足ナル期間ニ限り銀行
預金ノ方法ニ依リ之ヲ管理スルモノトス

第九條 本財團ノ資産ハ如何ナル場合ト雖モ之ヲ費消

スルコトヲ得ス本財團ノ資産ヨリ生スル果實ハ其五
分ノ四以内ヲ眞宗本願寺派興學布教ノ費用ニ其五分
ノ壹以内ヲ本財團ノ管理維持ノ費用ニ充テ剩餘アル
トキハ總テ之ヲ資産ニ編入スヘシ但資産總額貳百萬
圓ニ達シタルトキハ評議員會ノ議決ニ依リ其果實ヲ
處分スルモノトス

第十條 本財團ノ會計年度ハ毎年一月ニ始リ十二月ニ
終ル毎年度ノ決算ハ其翌年一月ニ於テ理事ヨリ評議
員會ニ報告シ承認ヲ求ムヘシ

第五章 役員ニ關スル規定

第十一條 本財團ニ評議員二十名以内(内半数僧侶)理
事一名常務員二名監事三名及書記若干名ヲ置ク

第十二條 評議員理事常務員及監事ハ設立者ニ於テ書
記ハ理事ニ於テ之ヲ任免ス

理事及常務員タル者ハ評議員タル者ニ限ル

第十三條 評議員理事常務員監事ノ任期ハ滿三ヶ年ト
ス但再任セラル、コトヲ得

第十四條 評議員理事常務員監事ハ設立者ニ於テ不適
當ト認ムルトキハ何時ニテモ解任スルコトヲ得

第十五條 評議員理事常務員監事交迭ノ場合ハ前任者
ハ後任者ノ就職スルニ至ル迄執務スヘシ但設立者ニ

於テ執務ヲ禁シタル場合ハ此限リニ在ラス

第十六條 評議員理事常務員監事補缺ノ場合ニ於ケル
後任者ハ前任者ノ殘任期間在職スルモノトス

第十七條 評議員ハ評議員會ニ出席シ其議員タルノ職
務ヲ行フ

理事ハ民法ニ規定セル職務ノ外評議員會ニ於テ議長
ノ職務ヲ行フ

第十八條 常務員ハ理事ノ指揮ヲ受ケ書記ハ理事及常
務員ノ指揮ヲ受ケ各其事務ニ従事ス

第十九條 評議員理事常務員監事書記ニ對シテハ評議
員會ノ定メタル金額ヲ手當トシテ給與ス

第六章 會議ニ關スル規定

第二十條 本財團ニ評議員會ヲ置キ第八條第九條第十
條第十九條第二十八條其他重要ト認ムル事項ヲ議決
セシム

評議員會ノ議決ヲ經ヘキ事項ハ理事ニ於テ之ヲ專決
處分スルヲ得ス

評議員會ハ定式及臨時ノ二種トス

第二十一條 定式評議員會ハ毎年一月臨時評議員會ハ
必要ノ場合ニ之ヲ開ク

第二十二條 評議員會ノ招集ハ開會ノ日ヨリ起算シ一

財團部・眞宗本願寺派護持會財團寄附行爲

週間以前ニ議題ヲ添付シ招集狀ヲ發ス

第二十三條 評議員會ノ招集權ヲ有スル者ハ設立者理
事ノ二者トス

第二十四條 評議員會ハ評議員總數四分ノ三以上出席
スルニアラサレハ開會スルコトヲ得ス但招集再回ニ
及フモ其數ニ充タサルトキハ此限ニ非ス

第二十五條 評議員會ノ議決ハ出席員ノ過半数ヲ以テ
之ヲ決ス可相半スルトキハ議長ノ決スル所ニ依ル

第二十六條 總テ評議員會ノ議決ハ設立者ノ承認ヲ經
テ之ヲ施行ス

第七章 附 則

第二十七條 設立者ノ權利ハ本願寺門跡繼承人之ヲ繼
承ス

第二十八條 本財團ノ處務細則ハ評議員會ニ於テ之ヲ
定ム

財團部・大日本佛教慈善會財團設立許可之件

○大日本佛教慈善會財團設立許可之件

(明治三十四年九月 告示第二十六號)

今般大日本佛教慈善會財團設立ノ儀其筋へ御願立相成候處別紙ノ通許可相成ル

(別紙)

內務省指令第六八號

京都市下京區堀川通本願寺門前町 設立者總代

伯爵 大谷 光尊

外十三名

明治三十四年六月二十二日申請大日本佛教慈善會設立ノ件

右民法第三十四條ニ依リ許可ス

但シ事業著手ノ際豫メ規則ヲ定メ主務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

明治三十四年九月二十一日

內務大臣男爵 内海 忠勝

司法大臣 清浦 奎吾

文部大臣理學博士 菊池 大麓

財團法人設立御許可申請書

今般別紙寄附行爲趣意之通設立致度候ニ付御許可被成下度民法第三十四條ニ依リ此段申請候也

明治三十四年六月二十二日

京都市下京區堀川通本願寺門前町 眞宗本山本願寺門跡

申請人總代 伯爵 大谷 光尊

京都市上京區聖護院町三十二番地 寄留

同 武田 篤初

山口縣周防國大島郡久賀村三百三十二番地

同 大洲 鐵然

大阪市南區巖谷東ノ町百九十五番地

同 小田 尊順

東京市麹町區中六番町六番地

同 鳥地 默雷

京都市下京區御前通西洞院東へ入蛭子水町十二番戶寄留

同 赤松 連城

京都市下京區新門前通大和大路東入梅本町五十七番戶

同 池田 清助

財團部・大日本佛教慈善會財團寄附行爲

內務大臣男爵内海忠勝殿

同 伊藤 忠兵衛

同 滋賀縣犬上郡豐郷村ノ内八目村十番地

同 伊藤 長次郎

同 兵庫縣印南郡伊保村ノ内今市村八十一番地

同 小西 新右衛門

同 兵庫縣川邊郡伊丹町ノ内伊丹町九百五十六番地

同 阿部 市郎兵衛

同 大阪市東區南本町二丁目百二十番屋敷

同 芝原 嘉兵衛

同 京都市下京區高辻大宮町十九番戶

同 龜岡 德太郎

同 大阪市南區順慶町四丁目八十六番屋敷

同 飯田 新兵衛

同 京都市下京區烏丸通高辻下ル藥師前町一番戶

○大日本佛教慈善會財團寄附行爲

第一章 目的

第一條 本財團ハ佛教ノ本旨ニ基キ慈善ノ行爲ヲ振興シ社會ノ福祉ヲ増進スル爲メ左ノ事業ヲ行フヲ目的トス

一、貧者施療

二、孤兒貧兒ノ養育其他一般細民ノ教育

三、罹災救助

四、感化

五、免因保護

六、布教費補助

七、學校補助金

八、其他必要ナル社會ノ福祉ニ關スル事業

第二章 名稱

第二條 本財團ハ大日本佛教慈善會財團ト稱ス

第三章 事務所

第三條 本財團ノ事務所ヲ京都市ニ置ク

第四章 資産

第四條 本財團ハ左ノ資産ヲ以テ成立ス

一金壹百萬參百壹圓參拾錢七厘

一金壹萬五千九百圓

公債證書

財團部・大日本佛教慈善會財團寄附行爲

内譯 一金六千五百八拾圓貳拾貳錢 起業銀行寄託
一金參百八拾圓六拾九錢 京都銀行寄託
一金九拾七萬七千四百四拾圓參拾九錢七厘

第五條 前條ノ資産及財團ニ對スル寄附金ニ依リ基金
金五百萬圓以上ヲ得ンコトヲ期ス

第六條 本財團ノ設立者設立財産ノ寄贈者及將來本財
團ニ資産ヲ寄附シタルモノハ總テ會員ト稱シ其ノ出
金額ニ依リ左ノ六種ニ分ツ

特別名譽會員 聲望世ニ秀テ本財團ノ目的ヲ
贊成スル者
名譽會員 金壹萬圓以上出金セシ者
有功會員 金壹千圓以上出金セシ者
特別會員 金壹百圓以上出金セシ者
通常會員 金拾圓以上出金セシ者
贊助會員 金拾圓未滿出金セシ者

第七條 通常會員以上ニハ記章ヲ交附スヘシ記章ヲ携
帶スル者ニ對シテハ本財團ニ於テ相當ノ待遇ヲナス
第八條 本財團ニ資財ヲ寄附スル者アル時ハ之ヲ收納
ニ編入シ之ニ對シ謝狀ヲ贈リ報告書又ハ新聞紙ニ之
ヲ記載スヘシ

第九條 本財團ノ資産ハ之ヲ資本部及常用部ノ二ニ分
ツ
第十條 資本部ハ本財團ノ資産及寄附金ノ四分ノ三以
上ヲ以テ之ニ當テ本財團ノ基金トナシ國債及地方債
證券ヲ買入レ之ヲ利殖ス
第十一條 基金ハ之ヲ使用スルコトヲ得ス但シ其利殖
金ハ之ヲ常用部ニ移入スルコトヲ得
第十二條 常用部ハ資産及寄附金ノ四分ノ一以下及基
金ノ利殖金ヲ受ケ本財團ノ維持及事業ノ經費ニ使用
ス
第十三條 基金金五百萬圓ニ滿チタル爾後ノ寄附金及
利殖金ハ評議員會ノ議決ヲ經テ資本常用ノ區分ヲ定
ム
第十四條 本財團ノ會計年度ハ毎年一月一日ニ始リ同
年十二月三十一日ニ終ル
第十五條 本財團ノ資産ノ出納ハ評議員會ノ承認ヲ經
テ翌年五月末日迄ニ公告スヘシ
第五章 理事其他ノ役員及評議員會
第十六條 本財團ニ總裁一名ヲ置キ眞宗本願寺派本願

寺法主ヲ以テ之ニ充ツ

第十七條 本財團ニ理事五名監事三名ヲ置ク

第十八條 理事及監事ハ評議員中ヨリ總裁之ヲ特選ス
其ノ任期ハ評議員ノ任期ニ從フモノトス

第十九條 理事ハ評議員會ニテ不適當ト認メタル時ハ
任期ニ拘ラス總裁之ヲ解任スルコトヲ得

第二十條 理事中ヨリ總裁ノ特選ヲ以テ理事長一名ヲ
置ク

第二十一條 理事長ハ本財團ヲ代表シ一切ノ事務ヲ處
理シ事務員以下ヲ任免ス理事長事故アル時ハ總裁ノ
指名ニ依リ理事ノ一名之ヲ代理ス

第二十二條 理事ハ理事長ヲ補佐シ事務ニ從事ス

第二十三條 監事ハ本財團ノ資産及理事ノ業務執行ヲ
監査ス其ノ不正ノ廉アルコトヲ發見シタル時ハ之レ
ヲ總裁評議員會又ハ主務官廳ニ報告スヘシ

第二十四條 本財團ニ評議員百名ヲ置ク

第二十五條 評議員ハ設立ノ際ハ名譽會員有功會員特
別會員中ヨリ設立者之ヲ選ミ爾後ハ總裁之ヲ特選ス

第二十六條 評議員ノ任期ハ四年トス但再任ヲ妨ケス
補缺ノ爲メ特選セラレシモノハ前任者ノ任期ニ依リ
理事監事及評議員滿期ノ場合ニ於テモ後任者就職マ

財團部・大日本佛教慈善會財團寄附行爲

テハ在職スルモノトス

第二十七條 評議員會ハ毎年一回之ヲ開キ理事之ヲ招
集ス其議事ハ過半数ニ依リ之ヲ決ス可否同數ナルト
キハ會長ノ決スル處ニヨリ又理事ニ於テ必要アリト
認メタルトキ及監事ノ請求アリタルトキ臨時會ヲ開
クコトアルヘシ但出席員四分ノ一二滿タサルトキハ
開會スルヲ得ス

第二十八條 評議員會ノ會長ハ每會評議員ノ互選ニヨ
ル

第二十九條 事業ノ著手順序時期場所毎年ノ豫算ハ評
議員會ノ決議ヲ經總裁ノ認可ヲ得テ理事之ヲ定ム

第三十條 一國又ハ一地方ニ於テ金五萬圓以上ヲ出金
シタルトキハ理事長ハ前條ノ順序ヲ經テ其區域ニ於
テ其出金額ニ對スル常用部ノ金額ヲ以テ財團ノ事業
ヲ行フコトヲ得

○大日本佛教慈善會財團處務規程

(明治三十四年十月 告示第二十七號)

- 第一條 理事長及理事ハ寄附行爲ニ依リ本財團ノ事務ニ關シ其實ニ任ス
- 第二條 理事ハ理事長ヲ補佐シ事務員ヲ指揮シ本財團ノ事務ニ從事ス
- 第三條 監事ハ寄附行爲第二十三條ニ依リテ監査ノ責ニ任ス
- 第四條 本財團ニ獎勵庶務出納ノ三部ヲ置ク
- 第五條 事務員中ニ參務一名書記若干名ヲ置キ各部ノ事務ニ從ハシム
- 第六條 毎年定期評議員會ニ於テ前年度ノ決算ヲ報告シ其次年度ノ豫算ヲ議決ス
- 第七條 豫算ノ様式ヲ定ムルコト別表ノ如シ但各項流用ヲ許サス
- 第八條 豫備費ハ豫算ノ不足又ハ避ク可ラサル豫算外ニ生シタル必要ノ費途ニ充ツ

(別表略ス)

○大日本佛教慈善會財團細則

(明治三十四年十月 告示第二十八號)

- 第一條 金圓ノ寄附ハ一時即納スルモ又十ヶ年以内ニ納付スルモ申込者ノ隨意タルヘシ但シ一時即納者ハ二割ヲ減ス
- 第二條 本財團ハ金員物品ノ寄附ヲ受ケタルトキハ一定ノ領收證ヲ交付スヘシ
- 第三條 年賦金ノ一ヶ年分ヲ領收シタルトキハ本財團ハ規定ノ會員別ニ準シ記章ヲ交付スヘシ
- 第四條 理事及事務員ハ評議員會ノ定ムル所ニ依リ相當ノ報酬ヲ受ク
- 第五條 監事評議員ハ總テ名譽職トス但シ評議員會ノ定ムル所ニ依リ報酬又ハ旅費日當ヲ受クルコトアルヘシ
- 第六條 定期評議員會ハ毎年四月ニ開會ス
- 第七條 評議員會招集ハ開會ノ日ヨリ起算シ少ナクトモ二十日以前ニ招集狀ヲ發スヘシ但シ招集狀ハ總テ理事長ノ名義ヲ以テ之ヲ發ス
- 第八條 評議員會ハ總數四分ノ一以上(理事監事ヲ包含ス)出席スルニ非サレハ開會スルコトヲ得ス

○大日本佛教慈善會財團記章規則

(明治三十八年十月 告示第二十九號)

- 第一條 本財團寄附行爲第七條ニ基キ記章ヲ設ク
- 第二條 記章ハ寄附行爲第六條規定ノ六種ニ區分シ總總色目ヲ十一級ニ分チ寄附金分納一ヶ年以上ヲ納メタル者ニ付與ス但シ寄附金ノ殘額ヲ納付セザル者ハ付與シタル記章ヲ返附セシメ更ニ第三條ニ相當スル記章ヲ付與ス
- 第三條 記章製圖類別ハ左ノ如シ

表 丸形ニ下リ藤ヲ彫刻シ慈ノ一字篆書ニテ挿入

財團部・大日本佛教慈善會財團記章規則

裏 大日本佛教慈善會財團何々會員第何種

通常會員	金拾圓已上	七寶	水色
特別會員	金參拾圓已上	同	白茶
	金七拾圓已上	同	藕
	金壹百圓已上	同	黃
	金參百圓已上	同	茶
	金七百圓已上	同	萌黃
有功會員	金壹千圓已上	同	白
	金參千圓已上	同	緋
	金七千圓已上	同	紫
名譽會員	金壹萬圓已上	同	金銀
特別名譽會員	金	同	金

- 第四條 下級記章ヲ有スル者ニシテ進テ上級ノ申込ヲナストキハ上級記章ト交換スヘシ
- 第五條 記章ヲ紛失セシトキハ會員二名已上ノ連署ヲ以テ更ニ請求スヘシ本財團ハ事實調査ノ上記章ヲ交付スヘシ但シ複製費ハ本人ノ負擔タルヘシ

財團部・本願寺人事相談所規程 本末共保財團設立條例

○本願寺人事相談所規程(大正十五年四月) (月告示第六號)

- 第一條 大日本佛教慈善會財團ニ人事相談所ヲ設ケ本願寺人事相談所ト稱ス
- 第二條 本所ハ京都市油小路通七條上ル米屋町ニ置ケ
- 第三條 本所ハ貧困失職其他特殊ノ事情ニ依リ困難スル者又ハ本山參拜者等ニ對シ救助保護指示等ノコトニ任ス
- 第四條 本所ニ於テ取扱フ事項左ノ如シ
 - 一 身上相談
 - 一 法律相談
 - 一 健康相談
 - 一 職業相談
 - 一 其・他

第五條 本所ニ左ノ職員ヲ置ケ

- 主事 一名
- 司事 若干名
- 囑託 若干名

第六條 本所ノ經費ハ大日本佛教慈善會財團ノ負擔及特志家ノ寄附ニヨル

第七條 本所員ハ取扱フ事件ニ對シテ懇切丁寧ヲ旨ト

シ且ツ當事者ノ名譽ヲ尊重シ事件ニ就テハ秘密ヲ嚴守スルモノトス

附 則

本規程ハ大正十五年四月一日ヨリ之ヲ實施ス

○本末共保財團設立條例(明治三十九年三月) (法度第十號)

- 第一條 宗祖大師六百五十年大御遠忌紀念ノ爲メ本末共保財團ヲ設立ス
- 第二條 本末共保財團ハ本山別院末寺說教所及ヒ教會講社ノ維持資金ヲ積立テ一派本末基礎ノ安全ヲ圖ルヲ以テ目的トス
- 第三條 前條ノ目的ヲ達スル爲メ左ノ方法ヲ以テ資金ノ寄附ヲ受ケ
 - 一時又ハ數時現金ノ寄附一人ニテ毎年金壹圓八錢ツ
 - 五年間繼續ノ寄附又ハ一時ニ金五圓四拾錢ノ寄附

○本末共保財團寄附行爲

(明治四十年六月) (大正五、四) 告示第十一號

- 第一章 名 稱
- 第一條 本財團ハ本末共保財團ト稱ス
- 第二章 目 的
- 第二條 本財團ハ眞宗宗祖見眞大師六百五十年大御遠忌紀念ノ爲メ本願寺派本山別院末寺說教所及教會講社ノ維持資金ヲ積立テ一派本末基礎ノ安全ヲ圖ルヲ以テ目的トス
- 第三章 事務所
- 第三條 本財團事務所ハ京都市下京區堀川通本願寺門前町一番戶本願寺派本山本願寺ニ置ケ
- 第四章 資 産
- 第四條 本財團ハ左ノ資産ヲ以テ成立ス
 - 金貳拾四萬貳千四百參拾六圓五拾四錢壹厘
- 第五條 本財團ノ資産ハ前條ノ設立資産並將來本財團ニ對スル寄附金ニ依リ總額金五百四拾圓以上ヲ得ンコトヲ期ス

本願寺寄託

- 之ヲ一口ト稱ス但シ一人ニテ數千口又ハ二人ニテ一口ヲ納ムルモ寄附者ノ意思ニ任ス
- 第四條 資産ハ金五百四拾萬圓以上ヲ得ンコトヲ期ス
- 第五條 資産ハ之ヲ基金常用金ノ二ニ分ツ
- 第六條 基金ヲ本山基金ト別院末寺說教所教會講社基金トノ二ツニ分ツ
- 第七條 寄附金ハ之ヲ三分シテ一分ヲ本山基金一分ヲ別院末寺說教所教會講社ノ基金一分ヲ常用金ニ充ツ
- 第八條 本山基金常用金ニハ特ニ指定寄附ヲ受ケ
- 第八條 常用金ハ別途ニ之ヲ蓄積シ本山ノ法要殿堂ノ維持教學ニ對スル臨時ノ費用及ヒ本財團ノ設立及基金豫定額ニ達スル迄ノ費用ヲ支辨スルモノトス
- 第九條 本財團事務所ハ京都市下京區堀川通本願寺門前町一番戶眞宗本願寺派本山本願寺ニ置ケ
- 第十條 財團成立後ハ民法ノ規定ニ依ル
- 第十一條 募集規則及ヒ設立事務條例ハ教示ヲ以テ之ヲ定ム

附 則

此法度ハ發布ノ日ヨリ施行ス

財團部・本末共保財團設立條例 本末共保財團寄附行爲

財團部・本末共保財團寄附行為

第六條 本財團ノ資産ハ基金常用金ノ二ニ分ツ

第七條 前條基金ヲ本山基金ト別院末寺說教所及教會講社基金トノ二ニ分ツ

第八條 本山基金ハ別院末寺說教所及其檀信徒教會講社及教會講社員並ニ本財團趣意賛成者ヨリ本財團ニ對スル寄附金三分ノ一又ハ本山直門徒ヨリ同斷寄附金三分ノ二又ハ指定寄附金ヲ以テ之ニ編入ス

第九條 別院末寺說教所及教會講社基金ハ別院末寺說教所及其檀信徒教會講社及教會講社員並ニ本財團趣意賛成者ヨリ本財團ニ對スル寄附金三分ノ一又ハ指定寄附金ヲ以テ之ニ編入ス

第十條 別院末寺說教所及教會講社ニシテ明治三十九年一月一日以前ニ於テ資金ヲ積立テアルモノハ其資金ノ一部若クハ全分ヲ第十四條第二項ノ目的ニ從ヒ當該別院末寺說教所及教會講社ノ補助ニ供スル爲メ別院末寺說教所及教會講社基金ニ指定寄附スルコトヲ得

第十一條 基金ハ國債證券又ハ確實ナル有價證券及ヒ土地山林ヲ買入レ若クハ確實ナル銀行ニ預ケ利殖ヲ圖ルモノトス

第十二條 基金ハ如何ナル事故アルモ之ヲ使用スルヲ得

得ス但シ第十七條ノ但書ニ該當スル場合ハ此ノ限ニアラス

第十三條 前條基金ヨリ生スル果實三十分ノ一ヲ毎年積立テ之ヲ非常準備金トス

第十四條 前條非常準備金以外ニ於ケル基金ノ果實ハ本山別院末寺說教所及教會講社ノ維持費並ニ本財團基金豫定額ニ達セル以後ニ於ケル本財團經費ニ支出ス但基金豫定額ニ達セサル以前ト雖モ本財團ノ維持ニ必要ナル經費ニ不足ヲ生シタル時ハ本山基金ヨリ生スル果實ノ三分ノ一以內ヲ以テ之ニ充當スルコトヲ得

第十五條 本山維持費ハ本山基金ヨリ生スル果實ヲ以テ之ニ充テ本山經費ノ不足ヲ補充スル爲メ之ヲ支出シ別院末寺說教所及教會講社維持費ハ別院末寺說教所及教會講社基金ヨリ生スル果實ヲ以テ之ニ充テ別院末寺說教所及教會講社ノ殿堂維持子弟教育布教法要費ニ補充スルモノトス

第十六條 前條非常準備金以外ニ於ケル基金ノ果實ハ本山別院末寺說教所及教會講社ノ維持費並ニ本財團基金豫定額ニ達セル以後ニ於ケル本財團經費ニ支出ス但基金豫定額ニ達セサル以前ト雖モ本財團ノ維持ニ必要ナル經費ニ不足ヲ生シタル時ハ本山基金ヨリ生スル果實ノ三分ノ一以內ヲ以テ之ニ充當スルコトヲ得

財團部・本末共保財團寄附行為

第十七條 常用金ハ別院末寺說教所及教會講社ニ對スル支出金ハ先以テ寄附金ヲ爲シタル別院末寺說教所及教會講社ニ下付シナホ殘餘アルトキハ之ヲ他ニ及ホスコトヲ得但シ其下附金高及ヒ方法順序ハ評議員會ノ議ヲ經テ之ヲ定ム

第十八條 本財團ニ對スル寄附金ハ右ノ二類ノ方法ニ依ル者ヨリ之ヲ受ク

一、一時又ハ數時ニ現金ヲ寄附スル者

二、一人ニテ毎年金壹圓入錢宛ヲ五年繼續シテ納ル者又ハ五年分ヲ一時ニ納ル者此ノ一人ノ者ヲ一口ト稱ス

第十九條 前條第二類ノ寄附金ハ一人ニテ數千百口ヲ納ルモノ又ハ二人ニテ一口ヲ納ルモノ寄附者ノ意思ニ任ス

第二十條 本財團ニ對シ既ニ申込ミタル寄附申込額ハ寄附者ノ都合ニ依リ取消又ハ減額ヲ承認スルコトアルヘシ

第二十一條 本財團ノ會計年度ハ毎年一月一日ニ始リ同年十二月三十一日ニ終ル

第二十二條 本財團ノ資産ノ出納ハ翌年定期評議員會ノ承諾ヲ經テ寄附者ニ公告スヘシ

第二十三條 本財團ハ眞宗本願寺派本山本願寺法主ヲ以テ總裁ト定ム

第二十四條 本財團ニ理事三名監事三名ヲ置ク

第二十五條 理事監事ハ評議員中ヨリ總裁之ヲ特選ス其任期ハ評議員ノ任期ニ同シ

第二十六條 理事ニシテ評議員會ニ於テ不適當ト認メ

財團部・本末共保財團寄附行爲

- ラレタルトキハ總裁ハ任期ニ拘ラス之ヲ解任スルコトヲ得
- 第二十七條 理事中ヨリ總裁ノ特選ヲ以テ理事長一名ヲ置ク
- 第二十八條 理事長ハ本財團ヲ代表シ本財團ノ事務ヲ處理シ事務員ヲ任免ス
- 理事長事故アルトキハ理事長ノ指名ニ依リ他ノ理事其事務ヲ代理ス
- 第二十九條 理事ハ理事長ヲ補佐シ事務ニ從フ
- 第三十條 監事ハ本財團ノ資産及ヒ理事ノ事務執行ヲ監査ス其不正ノ廉アルコトヲ發見シタルトキハ總裁評議員會又ハ主務官廳ニ報告ス
- 第三十一條 本財團ニ評議員三十名ヲ置ク
- 第三十二條 評議員ハ左ノ資格アル者ノ中ヨリ總裁之ヲ特選ス
 - 一、第十八條第一號金壹千圓以上ノ寄附者
 - 二、第十八條第二號參百圓以上ノ寄附者
 - 三、末寺ニシテ住職及附屬檀信徒ノ寄附金ヲ合シテ前二號ノ中其一ノ金額ニ二倍以上ニ相當スルトキ其住職タル者
- 四、別院ニシテ前第三號ニ該當スルトキ其監院又ハ

輪番別格別院ニシテ同斷ノトキ其住職又ハ法主兼務ノ時ニ於ケル監事

- 五、說教所教會講社ニシテ本條第三號ニ該當スルトキ其代表者
- 第三十三條 評議員ノ任期ハ四年トス但シ再任ヲ妨ケス補缺者ハ前任者ノ任期ニ依ル
- 第三十四條 理事監事評議員滿期ノトキト雖モ後任者就職セサル間ハ其職ヲ去ルヲ得ス
- 第三十五條 評議員會ハ毎年一回之ヲ開キ理事長ヨリ召集ス前項ニ拘ハラス理事長ニ於テ必要ト認メタルトキ又ハ監事ノ請求アリタルトキハ臨時會ヲ開クコトアルヘシ
- 第三十六條 評議員會ノ議事ハ理事長議長トナリ過半数ニ依リ之ヲ決ス
- 第三十七條 評議員會ハ出席者總員四分ノ一以上ニ達セサルトキハ開會スルヲ得ス
- 第三十八條 本財團事業ノ順序方法常用金利殖金支出豫算ハ評議員會ノ議ヲ經ヘキモノトス
- 第三十九條 理事監事評議員ニハ俸給ナシ但常務理事及事務員ニハ俸給ヲ附スルコトヲ得
- 第四十條 此ノ寄附行爲中第十二條ハ如何ナル場合ト

○本末共保財團事務規程

(明治四十年六月) (明治四三、二) 告示第十三號

- 第一條 理事長及理事ハ寄附行爲ニ依リ本財團ノ事務ニ關シ其責ニ任ス
- 第二條 理事ハ理事長ヲ補佐シ事務員ヲ指揮シテ本財團ノ事務ニ從事ス
- 第三條 監事ハ寄附行爲第二十九條ニ依テ監査ノ責ニ任ス
- 第四條 理事監事評議員ニハ俸給ナシ但評議員會ノ定ムル所ニ依リ報酬又ハ旅費日當ヲ受クルコトヲ得
- 第五條 本財團ニ左ノ事務員ヲ置ク
 - 一 主事 二 名

財團部・本末共保財團事務規程

- 一 主事補 二 名
- 一 書記 若干名
- 第六條 主事ハ理事長理事ノ指揮監督ヲ受ケ事務ヲ掌ル
- 第七條 主事補ハ上職ノ指揮監督ヲ承ケ事務ヲ掌ル
- 第八條 書記ハ上職ノ指揮ヲ承ケ雜務ニ從事ス
- 第九條 事務上ノ必要ニ依リ雇員ヲ使用スルコトヲ得
- 第十條 事務員ニハ俸給ヲ給ス
- 第十一條 定期評議員會ニ於テ前年度ノ決算ヲ報告シ之カ承認ヲ求メ並ニ次年度ノ豫算ヲ議決セシム
- 第十二條 定期評議員會ハ毎年十一月、十二月ノ間ニ於テ開會ス
- 第十三條 評議員會ノ招集ハ開會ノ日ヨリ起算シ少クトモ七日以前ニ於テ其會議ノ目的事項ヲ示シ理事長ヨリ之ヲ招集ス

財團部・本末基金果實處分手續 非常準備金下附規程

○本末基金果實處分手續

(明治四十四年一月) 大正二二
告示第一號

- 第一條 本手續ニ於ケル本末基金トハ寄附行爲第十七條但書規定ノ募集費ヲ控除シタルモノナ云フ
- 第二條 本末基金ハ納金ノ翌年一月一日ヨリ果實ヲ付シ其年度ノ果實ヲ納金ノ翌々年三月一日ヨリ本財團ニ於テ之ヲ支出ス但シ納金ノ年ニ於ケル利子ハ本財團ノ非常準備金ニ繰込ムモノトス
- 第三條 前條一二兩月間ノ果實ヨリ生スル果實ハ之ヲ本財團ノ雜收入トス
- 第四條 第二條支出ノ果實ハ寄附行爲第十三條ニ依リ其三十分ノ一ヲ非常準備金トシテ別途ニ積立テ三十分ノ二十九ヲ本末ニ交付ス但シ非常準備金ヨリ生スル利子ハ當該準備金ニ繰込ムモノトス
- 第五條 前條ノ非常準備金ノ下付ハ寄附行爲第十三條規定ノ罹災者ニシテ本山ノ證明アル者ニ對シ審査會ニ於テ其金額ヲ決定ス

審査會ハ左ノ委員ヲ以テ組織シ理事長之ヲ召集ス
理事 三名
評議員 四名(理事長指名)

第六條 本山基金ノ果實ハ寄附行爲第十四條ニ基キ本山執行所ヘ納付ス

第七條 末寺基金ノ果實ハ其末寺ノ基金ト確定スル金額ニ相當セルモノヲ其末寺ニ交付ス

第八條 前條ノ果實ハ本財團規定ノ領收書ニ別院ハ輪番若クハ鑿事及勘定末寺ハ住職及檀信徒總代カ豫テ届出タル印ヲ捺シテ差出シタル時ハ之ヲ交付ス若シ代人ナル時ハ委任狀ヲ要ス又郵便爲替等ヲ以テ受取ラントスル時ハ爲替料並ニ書留料ヲ控除ス

第九條 果實ノ交付計算ハ總テ錢位ニ止メ厘位以下ハ本財團非常準備金トス

○非常準備金下附規程 (大正二年八月)

告示第二十六號

- 第一條 非常準備金ハ明治四十三年一月基金發表以來ノ罹災末寺(別院、末寺、説教所、教會講社)ニシテ寄附行爲第十三條ニ該當スルモノハ之ヲ下付ス
- 第二條 非常準備金ハ罹災末寺ニシテ本山及地方廳ニ於テ再建ノ許可ヲ得タル時之カ下付願ヲ提出セシメ

- 審査決定ノ上之ヲ下付ス但シ非常準備金下付願書ハ別紙雛形ニ依ル
- 第三條 非常準備金ノ下付ハ本末基金又ハ本山基金完納ノ末寺ニ限ル但シ募集期間ハ標準額以上個人申込書提出済ノモノモ本文ニ準ス
- 第四條 非常準備金ノ下付ハ基金發表以後完結迄ハ積立非常準備金中ヨリ之ヲ支出シ完結後ハ積立非常準備金ノ果實ヲ以テ之ヲ支出ス但シ積立非常準備金ノ果實入ミニシテ不足ノ場合ハ本末基金ヨリ生スル果實ノ三十分ノ一ヲ併セ支出スル事ヲ得
- 第五條 非常準備金ノ下付ヲ受クヘキ建物ハ本堂又ハ庫裡ニ限ル
- 第六條 非常準備金ノ下付ハ其寺基金寄附額ヲ標準トシ罹災ノ程度ヲ斟酌シ審査會ニ於テ其金額ヲ決定ス

非常準備金下付願(雛形)

- 第一、罹災建物ノ種類(本堂又ハ庫裡)及其各坪數
 - 第二、同 年時
 - 第三、同 種類(水火風震)
- 第 郵 區 國 郡 市 町 村 寺

財團部・非常準備金下附規程

一、損害程度及損害見積額

一、再建着手ノ年時

一、同 種類及坪數

一、同 經費豫算高

一、本末基金標準額及其各納金額又ハ個人申込額

右ノ通りニ候條御調査ノ上非常準備金ヨリ再建補助金御下付被成下度地方廳再建許可指令寫相添此段願上候也

年 月 日

右 寺住職 ①

同 檀家總代 ②

同 ③

同 ④

(附記)

- 一、本申請ハ組長與書所結管事經由ノ事
- 一、審査會ノ調査材料トナルヘキ特殊事項ハ隨意記載(別紙ノ事)差支ナシ
- 一、別院、説教所、教會講社ハ前記様式ニ準スヘシ

財團部・財團法人設立準則

○財團法人設立準則(大正八年二月) (大正二七) 法度第一號

- 第一條 本山、別院ニ關シ成立セル諸機關ヲ財團法人トナシ又ハ上記諸機關ノ維持ヲ目的トスル財團法人ヲ設立セントスルトキハ本則ニ據リ寄附行為ヲ定メ本山ノ認可ヲ經ヘシ
- 第二條 財團ノ基本財産ハ使用スルヲ得ス
- 第三條 財團ノ基本財産ハ國債地方ヲ以テ蓄積スルヲ原則トス
- 第四條 財團ニハ左ノ職員ヲ置クモノトス
 - 總裁 一名
 - 評議員 若干名
 - 理事 若干名
 - 監事 若干名
- 第五條 總裁ニハ管長ヲ推戴スヘシ
- 第六條 評議員ハ基金寄附者及本山事務員又ハ直接間接ニ財團ニ關係アルモノヨリ總裁之ヲ選任ス
- 第七條 評議員ノ任期ハ四年以内トス職務ノ資格ニ依リ評議員トナリタル者ハ其職務ヲ去リタル時評議員ノ資格ヲ失フ
- 凡テ缺員ヲ生シタル時ハ總裁ハ直ニ之カ補缺ヲナス

ヘシ
第八條 理事及監事ハ評議員ニ於テ互選スルヲ以テ原則トス

- 但シ特殊ノ事情アル場合ハ此限ニアラス
 - 第九條 理事ハ財團ノ事務ニ關シ責任ヲ負フモノトス
 - 第十條 評議員ハ總員三分ノ一ノ二以上ノ出席アルニ非レハ開會スルヲ得ス若シ之ニ充タサレハ更ニ之ヲ召集スヘシ再召集ト雖總員ノ半數以上出席スルニ非レハ開會スルヲ得ス
 - 第十一條 寄附行為ノ更改及其他重要ナル規則ノ制定更改ハ理事會ノ立案ニ依リ評議員三分ノ二以上ノ同意ヲ經、本山ノ認可ヲ得ルヲ要ス
 - 第十二條 特別ノ事情ニ依リ本則則ニ據ルコト能ハサル時ハ理由ヲ具シ本山ノ許可ヲ受クヘシ
- 附 則
本法度ハ發布ノ日ヨリ施行ス

財團部・財團課規定 本願寺内外布教會財團設立條例

○財團課規定(大正十一年七月) (甲教示第十號)

- 第一條 本山關係ノ各財團ニ關スル事務ヲ管掌スル爲メ本山執行所内ニ財團課ヲ置ク
 - 第二條 財團課ノ事務ハ總テ財務部ニ隸屬ス
 - 第三條 財團課ニ左ノ事務員ヲ置ク
 - 主事 一名
 - 贊事 若干名
 - 録事 若干名
 - 第四條 主事ハ課内一切ノ事務ヲ統理ス
 - 第五條 贊事ハ主事ヲ輔ケ其分擔事務ヲ處理ス
 - 第六條 録事ハ上職ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス
- 附 則
本教示ハ發布ノ日ヨリ施行ス

○本願寺内外布教會財團設立條例 (大正十一年二月) 法度第二號

- 第一條 内國外國ニ於ケル布教傳道ノ健全ナル發展ヲ期シ基金ノ充實ヲ圖ル爲メ本願寺内外布教會財團ヲ設立ス
 - 第二條 本財團ハ本山講堂學資金中參拾萬圓ヲ受ケテ設立基金トシ漸次隨時ノ寄附金ヲ受ケテ基金ヲ増加ス
 - 第三條 前條寄附金ハ本財團ノ目的ニ違反セサル限り寄附者ノ意思ニヨリ指定寄附ヲ受ルヲ得
 - 但シ指定寄附ハ五千圓以上トス
 - 第四條 本財團ノ基金ハ國債地方債ヲ以テ蓄積シ如何ナル場合ニモ之ヲ費消セス毎年度其ノ果實ノ百分ノ九十ヲ本願寺布教ノ費用トシテ回付シ其百分ノ十ヲ本財團ノ經費ニ充テ剩餘アルトキハ總テ基金ニ編入ス
 - 第五條 本財團事務所ハ本山内ニ置ク
 - 第六條 本財團ノ寄附行為ハ民法及本派財團準則ニ由ルヘシ
- 附 則

財團部・本願寺内外布教會財團設立許可ノ件
本法度ハ發布ノ日ヨリ施行ス

本願寺内外布教會財團寄附行爲

財團法人設立認可申請書

今般別册寄附行爲ニ基キ本願寺内外布教會財團設立致
度候間御許可相成度民法第三十四條ニ依リ此段申請候
也

大正十一年九月九日

京都市下京區堀川通花屋町下ル
本願寺門前町官有地
眞宗本願寺派本願寺住職事務取扱
設立申請人 大谷 尊 由
文部大臣 鎌田 榮 吉殿

○本願寺内外布教會財團設立許可ノ件

(大正十二年三月
告示第九號)

今般本願寺内外布教會財團設立ノ件別記之通り文部大
臣ヨリ許可相成ル

大正十二年三月十七日 執行長 松島 善海

(別記)

文部省京宗一六號

京都市下京區堀川通花屋町下ル

本願寺門前町官有地

眞宗本願寺派本願寺住職事務取扱

大谷 尊 由

大正十一年九月九日附申請財團法人設立ノ件許可ス

大正十二年二月二十六日

文部大臣 鎌田 榮 吉 閣

○本願寺内外布教會財團寄附行爲

第一章 目的

第一條 本財團ハ内外ニ於ケル本願寺派布教傳道ノ發
展ヲ圖ルヲ以テ目的トス

第二章 名稱

第二條 本財團ハ本願寺内外布教會財團ト稱ス

第三章 事務所

第三條 本財團ノ事務所ハ京都市下京區堀川通花屋町
下ル本願寺門前町官有地眞宗本願寺派本願寺ニ置ク

第四章 資産

第四條 本財團ハ金參拾萬圓ノ資産ヲ以テ成立ス

第五條 資産ヲ分テテ基本財産ト經常財産トノ二トス

第六條 基本財産ハ第四條ニ掲ケル資産ヲ以テ之ニ充
ツ將來受クルトコロノ寄附金品及經常財産ノ一部ハ

評議員會ノ決議ヲ經テ何時ニテモ之ヲ基本財産ニ編
入スルコトヲ得

第七條 本財團ニ對スル寄附カ不動産ナル時ハ寄附者
ノ承諾ヲ得テ之ヲ賣却シ現金ニ換フルモノトス

第八條 寄附金ハ本財團ノ目的ニ違反セサル限り寄附
者ノ意志ニ依リ指定寄附チナスコトヲ得但シ指定寄
附金ハ金五千圓以上トス前項指定ノ目的ヲ達スルコ
ト能ハサル事由發生ノ場合ハ評議員會ノ決議ニ依リ
之ヲ處置ス

第九條 基本財産ハ奈何ナル事由アルモ之ヲ費消スル
コトヲ得ス

第十條 基本財産ニ屬スル現金ハ之ヲ公債證券ニ換ヘ
確實ナル銀行ニ寄託ス但シ金額五千圓未滿ノ場合ハ

財團部・本願寺内外布教會財團寄附行爲

確實ナル銀行ニ預入ル、コトヲ得

第十一條 經常財産ハ基本財産ヨリ生スル果實及其他
ノ收入ヲ以テ之ニ充ツ

第十二條 經常財産ハ其百分ノ九十ヲ眞宗本願寺派内
外布教傳道費トシテ本願寺派ニ寄贈シ其百分ノ十ヲ

本財團ノ經費ニ充ツルモノトス

第十三條 會計年度ハ毎年一月一日ニ始マリ十二月三
十一日ニ終ル

第五章 役員

第十四條 本財團ニ左ノ役員ヲ置ク

總裁 壹名
理事 參名
監事 貳名
評議員 貳拾名

第十五條 總裁ニハ眞宗本願寺派管長ヲ推戴ス

第十六條 理事及監事ハ本財團評議員中ヨリ總裁之ヲ
任用ス

第十七條 評議員ハ眞宗本願寺派本山事務員及本山勘
定又ハ寄附者中ヨリ總裁之ヲ選任ス

第十八條 前二條ニ依リ役員トナリタル者ノ中本山事

理事ノ内壹名ヲ理事長トシ總裁之ヲ選任ス

第十七條 評議員ハ眞宗本願寺派本山事務員及本山勘

定又ハ寄附者中ヨリ總裁之ヲ選任ス

第十八條 前二條ニ依リ役員トナリタル者ノ中本山事

財團部・本願寺内外布教會財團寄附行爲

- 務員及勘定ハ其職ヲ去リタルトキハ當然其資格ヲ失フモノトス
- 第十九條 理事監事及評議員ノ任期ハ滿四ケ年トス但シ再任ヲ妨ケス
- 補缺者ノ任期ハ前任者ノ殘任期間トス
- 第二十條 前條ノ役員ハ任期滿了後ト雖モ後任者執職マテハ執務スルモノトス
- 第二十一條 理事又ハ監事ハ其任期中ト雖モ評議員會ノ決議ニヨリ總裁之ヲ解任スルコトヲ得
- 第二十二條 理事長ハ本財團ヲ代表シ一切ノ事務ヲ統括ス理事長事故アルトキハ總裁ハ他ノ理事中ヨリ之カ代理ヲ爲スモノヲ選任ス
- 第二十三條 監事ハ本財團ノ財産及業務執行ノ狀況ヲ監査シ不整ノ廉アルコトヲ發見シタルトキハ直ニ總裁及主務官廳ニ報告スルコトヲ要ス
- 第二十四條 理事長ハ事務員ヲ任用シ本財團ノ常務ニ從事セシムルコトヲ得
- 第二十五條 評議員會ハ定時臨時ノ二トス定時評議員會ハ毎年一月之ヲ招集シ前年度ノ事業執行ノ狀況ヲ報告シ財産目錄及收支決算ノ承認ヲ求メ且ツ當年度ノ豫算ニ付決議ヲ經ルコトヲ要ス

臨時評議員會ハ評議員半數以上ノ連署ヲ以テ請求ノ場合其他必要ノ都度之ヲ招集ス

- 第二十六條 評議員會ハ理事長之ヲ招集ス招集ハ開會期日十日以前ニ書面ヲ發送スルニヨリテ之ヲ爲ス但シ緊急ヲ要スルトキハ二日ニ短縮スルコトヲ得
 - 第二十七條 評議員會ハ理事長ヲ以テ議長トス
 - 第二十八條 評議員會ハ總員ノ三分ノ二以上出席スルニアラサレハ開會スルコトヲ得ス但シ招集再回ニ及フモ定員ニ滿タルトキハ此限ニアラス
 - 第二十九條 議事ハ出席者過半數ノ同意ニ依リ之ヲ決ス但シ可否同數ナルトキハ議長ノ決スルコトコロニ依ル
 - 第三十條 評議員會ノ決議ハ凡テ總裁ノ認可ヲ經テ之ヲ執行ス
- 第六章 附 則
- 第三十一條 本寄附行爲ハ第一條第九條第三十一條第三十二條ノ規定ヲ除ク外評議員三分ノ二以上出席ノ評議員會ニ於テ四分ノ三以上ノ多數ヲ以テ決議シ總裁ノ承認ヲ經テ主務官廳ノ認可ヲ受ケ變更スルコトヲ得
 - 第三十二條 本財團ハ法定ノ解散事由發生スルニ非サ

○眞宗本願寺派本山法要財團設立條例

(大正十一年二月 法度 第三號)

- レハ解散スルコトヲ得ス若解散ノ時ハ其資産ノ全部ヲ眞宗本願寺ニ寄附スルモノトス
- 第一條 本山及本廟ニ於ケル永代經其他法要ノ基金蓄積ヲ圖ル爲メ本山法要財團ヲ設立ス
- 第二條 本山法要財團ハ本山講ニ蓄積セル永代經基金ヲ設立基金トシ隨時本山ヨリ回付スル永代經懇志其他ノ寄附金及有志者直接ノ寄附金ヲ以テ基金ヲ増加ス
- 但シ基金貳百萬圓ニ達シタル以後ノ寄附金及其果實處分ハ更ニ評議員會ノ議決ニ據ルモノトス
- 第三條 本財團ノ基金ハ如何ナル場合ニモ之ヲ費消セス果實ノ一部ヲ以テ財團經常費ニ充テ一部ヲ以テ本

財團部・眞宗本願寺派本山法要財團設立條例

眞宗本願寺派本山法要財團設立許可ノ件

○眞宗本願寺派本山法要財團設立許可ノ件

(大正十二年三月 告示 第八號)

今般眞宗本願寺派本山法要財團設立ノ件別記之通り文部大臣ヨリ許可相成ル

- 山及本廟ノ永代經法要費及其他ノ法要費ニ充ツ若シ年度内ニ剩餘アルトキハ基金ニ編入ス
 - 第四條 本財團事務所ハ本山内ニ置ク
 - 第五條 財團成立後ハ民法ノ規定ニ依ル
 - 第六條 財團設立ニ關スル必要ノ規定ハ教示ヲ以テ之ヲ定ム
- 附 則
- 財團設立認可マテハ本條積立金ノ利子ヲ本條目的ノ經費ニ充ツ
 - 本法度ハ大正十一年四月一日ヨリ施行ス

財團部・眞宗本願寺派本山法要財團設立許可ノ件 眞宗本願寺派本山法要財團寄附行爲
大正十二年三月十七日 執行長 松 島 善 海
文部大臣 鎌 田 榮 吉 殿

(別記)
文部省京宗一五號

京都市下京區堀川通花屋町下ル
本願寺門前町官有地

眞宗本願寺派本願寺住職事務取扱

大 谷 尊 由

大正十年九月九日附申請財團法人設立ノ件許可ス
大正十二年二月二十六日

文部大臣 鎌 田 榮 吉 殿

財團法人設立認可申請書

今般別冊寄附行爲ニ基キ眞宗本願寺派本山法要財團設立
致度候間御認可相成度民法第三十四條ニ依リ此段申請
候也

大正十一年九月九日

京都市下京區堀川通花屋町下ル

本願寺門前町官有地

眞宗本願寺派本願寺住職事務取扱

設立申請人 大 谷 尊 由 殿

文部大臣 鎌 田 榮 吉 殿

○眞宗本願寺派本山法要財團寄附行爲

第一章 目的

第一條 本財團ハ法要基金ヲ蓄積シ本山並ニ大谷本願
ニ於ケル永代經其他法要ノ經費ヲ支辨スルヲ以テ目
的トス

第二章 名稱

第二條 本財團ハ眞宗本願寺派本山法要財團ト稱ス

第三章 事務所

第三條 本財團ノ事務所ハ京都市下京區堀川通花屋町
下ル本願寺門前町官有地眞宗本願寺派本願寺 置ク

第四章 資産

第四條 本財團ハ金貳拾貳萬貳千九百八拾九圓零四錢
ノ資産ヲ以テ成立シ漸次之ヲ増殖シテ總額貳百萬圓
ニ達スルヲ期ス

第十三條 本財團ニ左ノ役員ヲ置ク

總裁 壹名

理事 參名

監事 貳名

評議員 貳拾名

第十四條 總裁ニハ眞宗本願寺派管長ヲ推戴ス

第十五條 理事及監事ハ本財團評議員中ヨリ總裁之ヲ
任用ス

理事ノ内壹名ヲ理事長トシ總裁之ヲ選任ス

第十六條 評議員ハ眞宗本願寺派本山事務員及本山勘
定又ハ寄附者中ヨリ總裁之ヲ選任ス

第十七條 前二條ニ依リ役員トナリタル者ノ内本山人
務員及勘定ハ其職ヲ去リタルトキハ當然其資格ヲ失
フモノトス

第十八條 理事監事及評議員ノ任期ハ滿四ヶ年トス但
再任ヲ妨ケス

第十九條 前條ノ役員ハ任期滿了後ト雖モ後任者就職
マテハ職務スルモノトス

第二十條 理事又ハ監事ハ其任期中ト雖モ評議員會ノ
決議ニヨリ總裁之ヲ解任スルコトヲ得

財團部・眞宗本願寺派本山法要財團寄附行爲

第五章 役員

第五條 資産ヲ分チテ基本財産ト經常財産トノ二トス
第六條 基本財産ハ第四條ニ掲クル資産ヲ以テ之ニ充
ツ將來受クルトコロノ寄附金品及經常財産ノ一部ハ
評議員會ノ決議ヲ經テ何時ニテモ之ヲ基本財産ニ編
入スルコトヲ得豫定資産貳百萬圓ニ達成以後ノ寄附
金及果實ノ處分ハ評議員會ノ議決ニヨルモノトス
第七條 本財團ニ對スル寄附力不動産ナルトキハ寄附
者ノ承諾ヲ以テ之ヲ賣却シ現金ニ換フルモノトス
第八條 基本財産ハ如何ナル事由アルモ之ヲ費消スル
コトヲ得ス
第九條 基本財産ニ屬スル現金ハ之ヲ公債證券ニ換ヘ
確實ナル銀行ニ寄託ス但シ金額五千圓未滿ノ場合ハ
確實ナル銀行ニ預入スルコトヲ得
第十條 經常財産ハ基本財産ヨリ生スル果實及其他ノ
收入ヲ以テ之ニ充ツ
第十一條 經常財産ハ其百分ノ九十ヲ永代經及其他ノ
法要修費トシテ本願寺派ニ寄贈シ其百分ノ十ヲ本
財團ノ經費ニ充ツルモノトス
第十二條 會計年度ハ毎年一月一日ニ始マリ十二月三
十一日ニ終ル

財團部・眞宗本願寺派本派法要財團寄附行為

- 第二十一條 理事長ハ本財團ヲ代表シ一切ノ事務ヲ統括ス
- 理事長事故アルトキハ總裁ハ他ノ理事中ヨリ之カ代理ヲ爲スモノヲ選任ス
- 第二十二條 監事ハ本財團ノ財産及業務執行ノ狀況ヲ監査シ不整ノ廉アルコトヲ發見シタルトキハ直ニ總裁及主務官廳ニ報告スルコトヲ要ス
- 第二十三條 理事長ハ事務員ヲ任用シ本財團ノ常務ニ從事セシムルコトヲ得
- 第二十四條 評議員會ハ定時臨時ノ二トス定時評議員會ハ毎年一月之ヲ召集シ前年度ノ事業執務ノ狀況ヲ報告シ財産目錄及收支決算ノ承認ヲ求メ且ツ當年度ノ豫算ニ付決議ヲ經ルコトヲ要ス
- 臨時評議員會ハ評議員半数以上ノ連署ヲ以テ請求ノ場合其他必要ノ都度之ヲ召集ス
- 第二十五條 評議員會ハ理事長之ヲ召集ス
- 召集ハ開會期日十日以前ニ書面ヲ發送スルニヨリテ之ヲ爲ス但シ緊急ヲ要スルトキハ二日ニ短縮スルコトヲ得
- 第二十六條 評議員會ハ理事長ヲ以テ議長トス
- 第二十七條 評議員會ハ總員ノ三分ノ二以上出席スル

ニアラサレハ開會スルコトヲ得ス但シ召集再回ニ及フモ定員ニ滿タサルトキハ此限ニアラス

第二十八條 議事ハ出席者過半数ノ同意ニ依リ之ヲ決ス但シ可否同數ナルトキハ議長ノ決スル所ニ依ル

第二十九條 評議員會ノ決議ハ凡テ總裁ノ認可ヲ經テ之ヲ執行ス

第六章 附則

第三十條 本寄附行為ハ第一條第八條第三十條第三十條ノ規定ヲ除ク外評議員三分ノ二以上出席ノ評議員會ニ於テ四分ノ三以上ノ多數ヲ以テ決議シ總裁ノ承認ヲ經テ主務官廳ノ認可ヲ受ケ變更スルコトヲ得

第三十一條 本財團ハ法定ノ解散事由發生スルニ非サレハ解散スルコトヲ得ス若解散ノ時ハ其資産ノ全部ヲ眞宗本願寺派本願寺ニ寄附スルモノトス

○龍谷大學財團設立條例

(大正十一年六月) 大正二二五
法度第七號

- 第一條 龍谷大學ノ經營及維持ヲ圖ル爲メ龍谷大學財團ヲ設立ス
- 第二條 本財團事務所ハ本山ニ置ク
- 第三條 本財團ノ資産ハ本山下附金並ニ一般有志者ノ寄附金總額壹百萬圓以上ヲ以テ之ニ充ツ
- 第四條 本財團ノ資産ヨリ生スル果實ハ財團ノ經常費及龍谷大學ノ經費ニ使用ス
- 第五條 本財團ノ基金ハ如何ナル場合ト雖モ費消スルコトヲ得ス
- 第六條 基金ハ國庫債券若クハ其他ノ公債ニ替ヘ又ハ主務官廳ノ認ムル確實ナル方法ニ依リ保管スルモノトス
- 第七條 本財團ニ左ノ職員ヲ置ク
 - 總裁 一名 管長ヲ推戴ス
 - 理事長 一名 執行長ヲ以テ之ニ充ツ
 - 理事 若干名 執行及龍谷大學總長ヲ以テ之ニ充ツ

財團部・龍谷大學財團設立許可ノ件 龍谷大學財團設立許可ノ件

○龍谷大學財團設立許可ノ件

(大正十一年六月) 告示第四號

今般龍谷大學財團設立ノ件別記ノ通文部大臣ヨリ許可相成ル

監事 若干名 寄附者中ヨリ選任ス

評議員 六十三名 集會會衆ヲ以テ之ニ充ツ

第八條 本財團設立後ハ民法ノ規定ニ依ル

第九條 財團設立ニ關スル必要ノ規定ハ教示ヲ以テ之ヲ定ム

附則

- 一、從來蓄積セル資金ハ龍谷大學財團ニ寄附ス
 - 二、龍谷大學ノ經費中本財團ノ資産ヨリ生スル果實授業料其他ノ收入ヲ以テ支辨シ能ハサル金額ハ每年本山ヨリ下附ス
- 本法度ハ發布ノ日ヨリ施行ス

財團部・龍谷大學財團設立許可ノ件 龍谷大學財團寄附行爲

(別記)

文部省京專第二四號

財團法人龍谷大學財團設立者

眞宗本願派本願寺住職事務取扱

大谷 尊 由

大正九年九月二十一日付申請財團法人龍谷大學財團設立ノ件民法第三十四條ニ依リ許可ス

大正十一年五月二十日

文部大臣 中橋徳五郎

第三條 本財團ノ經營スル學校ハ淨土眞宗ノ精神ニ依リ教育ヲ施スモノトス

本財團ノ經營スル學校ニ關スル規定ハ眞宗本願寺派ノ學校ニ關スル法度ニ依ル

第二章 名稱及事務所

第四條 本財團ハ龍谷大學財團ト稱ス

第五條 本財團事務所ハ京都市下京區堀川通花屋町下ル本願寺門前町官有地本願寺内ニ置ク

第三章 資産

第六條 本財團ニ屬スル資産ヲ分チテ基本財産及通常財産ノ二種トス

第七條 財團ノ基本財産ハ左ノ金員ヨリ成リ如何ナル場合ト雖モ費消スル事ヲ得ス

一、設立者タル眞宗本願寺派本願寺ヨリ寄附シタル金壹百萬圓

二、第九條第二項ニ依ル通常財産ヨリ成分編入セラ

ルヘキ金員

三、第十條ニ依ル寄附金員

第八條 本財團ノ通常財産ハ左ノ金員及物件ヨリ成リ規定ニ依リ成分スルコトヲ得ルモノトス

一、基本財産ヨリ生スル果實

○龍谷大學財團寄附行爲

第一章 目的

第一條 本財團ハ龍谷大學ノ經營及維持ヲ圖ルヲ以テ目的トス

第二條 前條ノ外本財團ハ中等教育又ハ專門教育ヲ行フ學校ヲ設營スルコトヲ得

二、第十條ニ依ル寄附物件

三、前年度剩餘金

四、雜收入

第九條 基本財産ハ國債證券若ハ其他ノ公債ニ替ヘ又ハ主務官廳ノ認ムル確實ナル方法ニ依リ供託スルモノトス

通常財産ハ評議員會ノ議決ヲ經テ之ヲ基本財産ニ成分編入スルコトヲ得

第十條 本財團ハ設立ノ趣旨ヲ賛成シテ寄附ヲナス者アルトキハ之ヲ受領ス

第十一條 基本財産ヨリ生スル果實ハ百分ノ三ヲ本財團ノ經常費ニ充テ百分ノ九十七ヲ龍谷大學ノ經費ニ充ツ

第十二條 本財團ノ會計年度ハ毎年四月一日ニ始リ翌年三月三十一日ニ終ル

第四章 職員

第十三條 本財團ニ左ノ職員ヲ置ク

總裁 一名

顧問 若干名

理事 二名以上六名以内

評議員 六十三名以内

財團部・龍谷大學財團寄附行爲

監事 五名

理事ノ内一名ヲ理事長トス但理事長ハ眞宗本願寺本願寺執行長之ニ當ルモノトス

第十四條 總裁ハ眞宗本願寺派本願寺長ヲ推戴ス

第十五條 顧問ハ學殖徳望アリ本財團ノ目的ヲ贊助スル者ノ中ヨリ總裁之ヲ囑託ス

第十六條 顧問ハ總裁ノ諮詢ニ應シ本財團ノ事業ヲ援助ス

第十七條 理事ハ眞宗本願寺派本願寺執行ノ中ヨリ總裁ノ選ヒタル者五名以内及龍谷大學長ヲ以テ之ニ充ツ

第十八條 評議員ハ眞宗本願寺派本願寺集會ノ會衆ヲ以テ之ニ充ツ

第十九條 監事ハ寄附者中ヨリ理事長ノ申請ニヨリ總裁之ヲ任免ス

監事ノ任期ハ四箇年トス但補缺者ノ任期ハ前任者ノ殘期トス

第二十條 第十七條及第十八條ニ依リ職員トナリタル者ハ其職務ヲ去リタルトキハ當然其職ヲ失フモノトス

第二十一條 本財團職員ハ總テ名譽職トス

財團部・龍谷大學財團寄附行爲

- 第二十二條 理事、評議員、監事更迭ノ場合ハ後任者ヘ引繼テ了スル迄執務スルモノトス
但總裁ノ特命アル時ハ此限ニアラス
 - 第二十三條 評議員會ハ理事、評議員、監事ヲ以テ組織ス
 - 第二十四條 評議員會ハ定時並ニ臨時トシ定時ハ毎年一月若クハ二月之ヲ召集シ前年度決算並ニ翌年度豫算其他理事長ヨリ提案スル必要ナル事項ヲ議スルモノトス
臨時評議員會ハ定時評議員會以外臨時ノ必要ヲ生シタル場合之ヲ召集スルモノトス
 - 第二十五條 評議員會ハ理事長之ヲ召集ス理事長事故アル時ハ理事會議ノ上之ヲ召集スルコトヲ得
 - 第二十六條 評議員會ハ總員ノ半數以上出席スルニ非レハ開會スルコトヲ得ス若シ之ニ充タサレハ更ニ之ヲ召集スヘシ
但再召集ト雖モ總員ノ三分ノ一以上出席スルニ非レハ開會スルコトヲ得ス
 - 第二十七條 理事長ハ評議員會ノ議長トナリ議事ハ出席者ノ過半數ヲ以テ決シ若シ同數ナルトキハ議長ノ定ムル所ニヨル
 - 第二十八條 理事長ハ本財團ヲ代表シテ其事務ヲ掌理シ理事ハ理事長ヲ補佐シ理事長事故アルトキハ合議ノ上理事長ノ職務ヲ處理ス
 - 第二十九條 評議員ハ本財團ノ資産及業務ノ狀況ヲ監査スルコトヲ得
 - 第三十條 監事ハ本財團ノ資産及事務ノ狀況ヲ監査スルモノトス
 - 第三十一條 本寄附行爲ニ規定セサル事項ハ凡テ民法ノ規定ニ依ル
 - 第三十二條 本財團ハ法定ノ解散事由發生スルニ非レハ解散スルコトヲ得ス
 - 第三十三條 本財團解散スルニ至リタル時ハ評議員會ノ議決ヲ經總裁ノ承認ヲ得テ其資産ノ全部ヲ眞宗本願寺派本願寺ニ寄附ス
- 第五章 附 則
- 第三十四條 本寄附行爲ハ評議員會ノ議決並ニ總裁ノ承認ヲ經主務官廳ノ認可ヲ得ルニ非レハ之ヲ變更スルコトヲ得ス
 - 第三十五條 前例ノ議決ニ際シテハ第一條、第七條、第九條及本條ノ規定ヲ變更スヘカラス
 - 第三十六條 第三十四條ノ議決ハ評議員會員三分ノ二

○本願寺派本願寺愛護財團設立條例

(大正十三年十月) 大正一五三
法度 第六號

- 第一條 大正十二年度關東震災臨時救災ノ施設事業繼續ノ爲メ震災記念トシテ本願寺派本願寺愛護財團ヲ設立ス
- 第二條 本財團ハ兒童愛護會ノ指定寄附金及其他ノ寄附金ヲ受ケテ基金トス
- 第三條 本財團ノ基金ハ如何ナル場合ト雖モ之ヲ費消セス其果實ヲ以テ事業ノ經費並ニ本財團ノ經費ニ充ツ
- 第四條 本財團ノ事務所ヲ築地別院內ニ置ク
- 第五條 本財團ノ寄附行爲ハ民法及本派財團準則ニ依

財團部・本願寺派本願寺愛護財團設立條例 宗學研究財團設立條例

○宗學研究財團設立條例 (大正十五年三月) 法度 第二號

- 第一條 宗學院ノ維持經營並ニ宗學研究獎勵ノ資金ヲ蓄積センカ爲メ宗學研究財團ヲ設立ス
- 第二條 本財團ハ本山寄附金並ニ其他ノ寄附金ヲ以テ基金トス
- 第三條 本財團ノ基金ハ如何ナル場合ト雖モ之ヲ費消セス其果實ヲ以テ事業資金並ニ本財團ノ經費ニ充ツ
- 第四條 本財團ノ事務所ヲ本山內ニ置ク

以上出席シ出席者ノ三分ノ二以上ノ同意アルニ非レハ議決スヘカラス

- 第六條 本財團設立ニ關スル必要ノ規定ハ教示ヲ以テ之ヲ定ム
- 附 則
- 一、本財團ノ經常費ハ資産ヨリ生セル果實及其他ノ收入ヲ以テ之ニ充ツ
 - 二、本法度ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

財團部・宗學研究財團設立條例 北米開教財團設立條例

第五條 本財團ノ寄附行爲ハ民法及本派財團準則ニ依ル

第六條 本財團設立ニ關スル必要ノ規定ハ教示ヲ以テ之ヲ定ム

附 則

本法度ハ發布ノ日ヨリ施行ス

第四條 本財團ノ事務所ヲ桑港北米開教々務所内ニ置ク

第五條 本財團ハ管長ヲ名譽團長、北米開教總長ヲ團長トシ北米駐在布教使ノ全部及各地佛教會信徒ノ代表者ヲ以テ團員トス

第六條 本財團ノ寄附行爲ハ本派財團準則ヲ參照シ加洲公法ニ依ル

第七條 本財團設立ニ關スル必要ノ規定ハ教示ヲ以テ之ヲ定ム

附 則

一、本財團成立ノ上ハ本山ハ内外布教會財團基金拾萬圓ヨリ生スル果實ノ範圍内ニ於テ年々本財團ニ補助シ經常費ニ支出セル殘餘金ヲ基金ニ編入スルモノトス

一、本法度ハ發布ノ日ヨリ施行ス

○北米開教財團設立條例(大正十五年三月) 法度第三號

第一條 北米開教二十五周年記念事業トシテ開教ノ基礎ヲ鞏固ニシ教線ノ擴張ヲ計ランカ爲メ北米開教財團ヲ設立ス

第二條 本財團ハ本山補助金及門徒並ニ篤志者ノ寄附金ヲ以テ基金トス

第三條 本財團ノ基金ハ如何ナル場合ト雖モ之ヲ費消セス其果實ヲ以テ開教費並ニ本財團ノ經費ニ充ツ

明治三十三年八月二十二日初版發行
明治三十四年十一月十二日再版發行
大正六年十二月二十五日三版發行
大正十五年十月三十一日發行

不 許 複 製

定價金壹圓

送料六錢

京都市下京區堀川通花屋町南入
本願寺門前町官有地本願寺内

編纂者 市 田 勝 道

京都市下京區八條源町貳拾八番地

發行兼 關 次 郎

印刷者 京都市下京區木津屋橋通油小路東入

印刷所 南町字西洞院川端五一三 内外出版株式會社印刷部

京都市下京區堀川通花屋町南入本願寺門前町

本願寺財務部

振替口座大阪參貳壹貳番

發行所

終

